

## 合理的配慮の提供事例報告書【中学校】

### 事例の概要

生徒A(B中学校2年生)は、通常の学級に在籍しており、自閉症スペクトラムの診断を受けている。小学校5年生の頃から、対人関係での難しさによりしんどくなり、環境をかえるため転校をしてきた。忘れ物が多く、友達や人の気持ちを正確に読み取ることが苦手である。具体的な指示内容でないと理解しづらく、特に集団の中で指示内容が多くなると理解し、覚えることが難しい。他者理解が難しいことにより、集団の中で納得できないことが多く、自分の思いを一方向的に伝えようとするところから、ストレスをためこんでしまう。

生徒Aは、1週間に1回の通級による指導を受けながら、スクールカウンセラーのカウンセリングを受けたり、スクールソーシャルワーカーと相談することで気持ちを整理しながら学校生活を送っている。中学校2年時からは大学との連携を活かし、専門的な視点から本人にとって必要な支援のアドバイスも受けている。

1 対象生徒の障害種

自閉症

2 障害の程度

※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か

3 在籍状況

中学校・通級による指導

4 学年

中2

5 対象生徒の実態

ことばの理解が字義通りのものであったり、抽象的な内容について正確に理解ができていないことで、人間関係のトラブルになることが多かった。また、伝達内容を正確に覚えておくことが苦手で、提出物などの忘れ物も多い。学習に関しては、暗記が得意であるほか、化学や宇宙といった好きなテーマについては専門的な知識を持っている。

ただ、自分の思い込みが強い場合、なかなか別の見方を受け入れるのに、時間がかかることがある。また、みんなの前でプラスの評価をもらうことに多大な努力をしようとするが、マイナス評価をうけると精神的に大きなショックを受けることがある。

6 対象生徒についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

保護者より、本人の特性から精神的に安定できる居場所の確保と対人スキルを高めるための学びと学力保障の要望があった。学校として通級による指導を提案し、指導が始まった。また、より専門的な指導を進めるために、巡回相談の活用や大学との連携を活かし具体的な支援を進めていく提案にも、保護者・本人が快諾し、指導も受けることができています。また、保護者より、忘れ物をなくすためのリストバンド着用の依頼があり、学校側として本人だけでなく全校生が着用可にした。また、連絡帳の点検を毎日実施することの対応策を提案し実施している。

## 7 基礎的環境整備の視点と概要

### 基礎② 専門性のある指導体制の確保

1年間、大学との連携を活かし、本人の実態を把握しながら、必要な支援方法や具体的な学習面・生活面での指導方法をA生徒も学校も学ぶことができ、共通理解した働きかけを行うことができています。教科指導が変わってもアプローチの方法が同じ方向で進められることで、安心した学校生活を送ることができる。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、巡回相談等も並行して活用することにより、個々の思いや考えを理解することができる。

### 基礎⑦ 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導

1週間に1度、通級による指導を行い、本人に合った指導の場を設ける。また、忘れ物対策のためのリストバンドの着用を使用可能とした。見通しをもてることへの安心感、忘れ物が減ることにより、自尊感情を高めながら、落ち着いて学校生活を送れるようになっていく。全校生にも活用を認めることとしたことにより生徒Aも気兼ねなくリストバンドを使いやすい状況にした。さらに、毎日連絡帳の点検を終学活の担当が見ることとした。形だけに終わるのではなく、継続した指導や確認等を家庭と連携することで本人の力として定着している。

## 8 合理的配慮の観点と概要

### 合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

自分の思っていることを自分以外の人に話せる場が少ないため、中学1年生では精神的に落ち着かないことが多かった。最初は週に2～3回通級による指導や図書室等の場所を活用し、自分の悩みなどを話す場を設定した。その効果を受けて、中学2年生になっても継続的に週に1度、通級教室で話す場を設けながらSSTを実施している。また、本人の課題である忘れ物を防止するために、リストバンドの着用を校内で認めて活用を許可したり、連絡帳の点検を個人的に学級担任の方で行ったりしている。また、保護者の希望もあって、テスト前の学習計画の目標づくりと点検も行った。

### 合理②-1 専門性のある指導体制の整備

週1回は大学の指導を1時間行っている。その中で、本人の特性である、相手の表情と相手の感情のちがいを理解する学習を重点的に行っている。指導においては、アンケート形式で本人の他者理解の状況を点検したり、興味ある内容をもとに考えさせる作業をしたりしている。また、本人の日常生活の困っていることを聞き出し、文字や図を使って整理することで、問題点を明確にしたり、課題を考えさせたりする指導も行っている。

## 9 成果と課題

### <成果>

1つ目に、本人のために指導の場を確保したり、指導者がかかわることで、精神的な支えとなる場が確保されたことが、本人の心の安定に大きな影響を与えている。自分の言いたいことを聞いてもらえることは、とても大きな心の安らぎである。忘れ物に関しては、多くの人が忘れ物をしないように気に掛けてくれたことが自分も自然と意識するようになって忘れ物が減ってきたとらえている。

2つ目に、専門的な指導があることで、自分の課題を分かりやすく発見して、意識することができ、生活を送る上での悩み事を軽減させている。また、冷静な分析の必要性も感じるようになり、人間関係のトラブルの時に多く見られた感情の爆発が起こりにくくなっている。

### <課題>

人間関係のやりとりであり、人の気持ちを、その場面で適切に読み取ることである。友達との交流が増えてきているので、失敗も増えてくるが、本人の学習となっている出来事も多い。その時々、本人の理解できる指導をし、本人の心の悩みを解きほぐし、本人の日常生活が円滑に進められるように支援していく。また、保護者との連携もより密に取り、将来を見据えて本人にとって納得した合意形成ができることを目指していく。